



台北国際コンピュータ見本市 「Computex Taipei」視察報告

中部支部 佐藤博昭

2024年6月4日と5日の両日に中部支部会員3名とComputex Taipeiを視察したので報告いたします。



台北桃園空港に到着後展示会場へ。今回の会場は南港1と2展示ホール。コンセプトはconnecting AI。世界のスタートアップが一堂に会するInnoVEXも併設されています。5年ぶりに訪れた南港展示場は、初日から多くの人が賑わっており、少なくとも以前より来場者は多いように感じました。後で確認したところ、コロナ禍前の2倍となる8万5千人の入場者が押し寄せたとのことです。

以前は2日目の午前中なら比較的空いており見学し易かったのですが、今回は思いのほか人が出ていました。MSI、ASUSやAcerなど大手は大きな展示スペースを確保し、AI PC(Copilot+PC)が強調され、AMDとNVIDIAが目立っていました。GIGABYTEはサーバーの展示が主になっていました。中でもNVIDIAはBest Choice Awardのトップになるなど会社の勢いがそのまま展示にも表れているようでした。やはりAIが各展示で強調されていました。又

ゲーム用PCも多数出していましたが従来よりも少ないと感じました。例年開催されるオーバークロックのコンテストも盛大に行われていました。台湾先進車用技術発展協会(TADA)のエリアでは、音声入力の翻訳デモとそれをエッジに取り入れて数は限られるものの多言語音声入力ができると言っていました。その他ルネサスのR-carを開発できる設計会社、画像認識、自動車用タッチパネル、車載用SSDやメモリーモジュールなど多数の中小の展示がありました。このエリア以外でも車載用の展示が多数見られ、台湾企業の車載分野への注力のほどが感じられました。工業技術研究院も大きなスペースで展示していました。

個人的に興味を持ったのは3Dウェハーの展示で、メモリーとロジックを立体的に貼り合わせてチップを設計している。技術的には新しくないが実際にウェハーを見たのは初めてでした。チップレベルで組み立てるのだと思っていたがウェハーで何層も貼り付けるのが可能だというのには驚きました。

PC用部品の展示も相変わらず多数出展しており、ブースの中では商談でもしているような雰囲気が感じられました。また、今回初めて気が付いたのは日本人向けの見学ツアーがあり、各ブースでの説明は日本語で聞けるという便利なサービスもありました。

InnoVEXの配置、アクセラレータが多くのエリアを確保
TAOやTREE(政府系) Garage+(NGO)など



CPNPUをうたって、AI用チップを開発するスタートアップ

InnoVEXは工業技術研究院がサポートしているインキュベーション施設である、前回訪問したTaiwan Tech Arina(TAA)、陽明交通大学、大学連合、政府経済部(2部門)、NGOや証券取引所などのアクセラレータが大きなエリアを確保し、日本の企業もその中に見られました。また沖縄や福岡など日本の地方地自体やフランス、インド、ベルギーやオーストラリアなど多数の国からの出展があり、国際的なスタートアップとの協調を目指しているようでした。各国のスタートアップをアクセラレータがどんどん取り込んで台湾の技術的優位を更にめざしているようです。InnoVEXは台湾を挙げてスタートアップへの様々な取り組みが組織的に行われ、NGOまでできていて、非常に大きな力が感じられた展示会です。

ここで個人的に気になった展示は、AI用のCPNPUを出していたスタートアップでAIの負荷によって構成を変えることのできるチップを提供できるようです。これは将来性があると思って根掘り葉掘り聞いていたら、どうも日本の大手自動車部品メーカーの資本が入っているとのことでちょっとがっかり、さすが大手メーカーのアンテナは高い。

今年のComputex(InnoVEXも含む)は勢いがあり台湾の底力を多く感じることができたイベントでした。



ASUSのNVIDIA展示



Edge AI Computingによる
画像認識のデモ



台湾先進車用技術発展協会
(TADA)ブース



3Dウェハー



日本人向けガイドツアー